

# ユビキタス情報社会における次世代の河川管理のあり方(提言のポイント)

## 提言の位置付け

ユビキタス情報社会の到来する今日において、河川管理が抱える課題

水と緑のふれあいの場としての期待など国民から河川に対するニーズの多様化

地球温暖化に伴う気候変化による水害・土砂災害等に対するリスクの増大傾向

多くの施設が更新時期を迎える中で、限られた予算や人員・体制による維持管理の実施

等への対応策として、ユビキタスネットワークを活かした河川管理の姿及びそれを実現する施策の方向性をとりまとめ

## 提言の概要

国民の目線からの『川と豊かにつきあうことのできる「川とともに生きる社会」』を目標像とし、双方向コミュニケーションにより多様な主体の連携・協働を進め、それぞれの持つ情報や力を活かした河川管理を推進

生命に関わる防災情報については、信頼性ある情報が、情報の受け手の状況に応じ、必要な情報がわかりやすく確実に提供されることが必要であることや、そのための技術開発や制度・体制づくりが必要

河川管理の分野ごとに施策の方向性、関連プロジェクトを提言

## 先行的に実施すべきプロジェクト

### ユビキタス河川情報システムの整備

いつでも、どこでも、誰でも河川に関し必要な情報が、受け手の属性や置かれている状況に応じて多様なツールから入手できるための環境整備

### 双方向型プラットフォームの整備

住民等から得られる情報を共有できる双方向型の情報基盤の構築  
住民等が緊急的な事態を発見した場合に、河川管理者に直接通報できるような窓口を開設

### 高精度な洪水予測を実現する専門組織の整備

洪水予測を専門的に扱う組織を整備し、集中的に予測技術等に関する研究開発や洪水予報の高精度化

### ユビキタスネットワークを活用した避難誘導支援の実用化

ICタグや携帯端末等を用い、非常時に住民等を円滑に避難誘導できるシステム整備

### 線的・面的・時間的にきめ細やかな状況把握の実現に向けた技術開発

新技術を積極的に開発・導入し、河川等の線的・面的・時間的にきめ細やかな監視の実現に向けての技術開発